

# M&Aで失敗しないための 契約の実務とチェックポイント

～ステージごとに必要となる契約の理解と、秘密保持契約書・基本合意書・株主間契約を中心としたチェックすべきポイント～

- 日時■ 2015年 6月3日(水) 14:00～17:00  
 ■会場■ 企業研究会セミナールーム(東京・麹町) TEL 03-5215-3515  
 ■講師■ アンダーソン・毛利・友常法律事務所 パートナー 弁護士 十市 崇

## 【講師紹介】

平成9年司法試験合格。平成10年慶應義塾大学法学部卒業。平成12年弁護士登録と同時にアンダーソン・毛利法律事務所(現アンダーソン・毛利・友常法律事務所)入所。平成17年米国Columbia University School of Law(LL.M.)卒業。平成18年ニューヨーク州弁護士登録。平成18年英国London Business School(MSc in Finance)卒業。平成20年同事務所パートナー就任。第二東京弁護士会所属。平成22年より成蹊大学非常勤講師就任。M&Aや企業法務に関する論文・講演多数。

## ◆開催にあたって

M&Aを行ううえで様々な契約が締結されますが、その内容はそれぞれのM&Aのスキームや取引の段階によって大きく異なるため、担当者はそれらを見極めたくて精査し、実行する必要があります。M&Aは交渉段階、締結段階、締結後の段階などの段階において、大きなリスクがあり、そのリスクを最小限にするためには契約について熟知しておくことが不可欠となります。

本セミナーでは、まず、M&A取引の段階について概観し、それぞれの段階において締結される契約を整理の上、M&A契約の基本形について解説し、M&A取引のスキームに応じた特徴について解説します。

その上で、M&A契約の中でも、実務上、頻繁に使われ、重要度の極めて高い秘密保持契約書、基本合意書、株主間契約を取り上げて、より詳細に解説を行います。

このうち、基本合意書については、締結の意義や開示といった基本的な論点にとどまらず、独占交渉権やフィデューシアリー・アウト条項といった応用論点について、裁判例や実務の留意点を含めて、詳細に解説を行います。また、株主間契約についても、締結の意義や開示といった事項や会社運営に関する条項に加えて、似た概念が多く、実務上、様々なバリエーションがある株式の取扱いに関する条項について、講師の経験を交えつつ、実務上の留意点について、詳細に解説を行います。

《プログラムは裏面をご覧ください》

## ●受講料●1名(税込み、資料代含む)

正会員	32,400円	本体価格 30,000円
一般	35,640円	本体価格 33,000円

●申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてにFAXいただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

●申込書をFAXにてご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

●会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕をご参照下さい。

●お申込み後のキャンセルは原則としてお受けいたしかねますので、お申込者をご出席できない場合には、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきますことでもありますので、ご了承下さい。

## 一般社団法人企業研究会

担当：倉島 E-mail: kurashima@bri.or.jp  
 〒102-0083  
 東京都千代田区麹町5-7-2 麹町31MTビル2F  
 TEL 03-5215-3515 FAX 03-5215-0951

一般社団法人企業研究会 セミナー事務局宛 FAX 03-5215-0951

\*当会ホームページ(<http://www.bri.or.jp>)からもお申込みいただけます。  
 \*FAXでご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

151391 0301	※	2015.6.3	
申込書 M&Aで失敗しないための契約の実務とチェックポイント			
会社名	フリガナ		
住所	〒		
ご氏名	フリガナ	所属	役職
TEL	FAX		
E-mail			

\*お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡、および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

# M&Aで失敗しないための 契約の実務とチェックポイント

6月3日(水)

● プログラム ●

14:00

## 1. M&Aの基本的な流れと契約の種類

- 1) M&Aの基本的な流れ、基本形
- 2) M&A取引の種類と種類ごとのM&A契約の留意点

## 2. 秘密保持契約書とその留意点

- 1) 締結の意義（なぜ必要とされ、どのような場面で締結される）
- 2) 主な記載項目
  - ・秘密情報の定義と例外、秘密の保持と例外
  - ・秘密情報の返還
  - ・有効期限

## 3. 基本合意書とその留意点

- 1) 締結の意義（なぜ必要とされ、どのような場面で締結される）
- 2) 主な記載事項（取引のストラクチャー、取引の対価、  
デューデリジェンス、その他の一般条項）
- 3) 開示に関する留意事項（どのような場合に開示が必要とされるのか）
- 4) 独占交渉権とその効果
  - ・内容と類型
  - ・違反の場合における差止め
  - ・損害賠償請求の可否と範囲（裁判例も含む）
- 5) フィデューシアリー・アウト条項
  - ・なぜ必要か、具体的な対応方法

## 4. 株主間契約とその留意点

- 1) 締結の意義（なぜ必要とされ、どのような場面で締結されるか）
- 2) 主な記載事項（会社運営に関する条項、株式の取扱いに関する条項）
- 3) 開示に関する留意事項（どのような場面で開示が必要とされるのか）
- 4) 会社運営に関する条項
  - ・役員を選任
  - ・事前協議・同意条項
- 5) 株式の取扱いに関する条項
  - ・譲渡制限と禁止
  - ・先買権と拒否権
  - ・プットオプションとコールオプション
  - ・タグアロングとドラッグアロング

17:00